

高校生のための経営学実践講座

学生チューターが得たものとは？



▲ 工夫を凝らしたプレゼンテーション

しかし、各グループが初対面の高校生同士で構成されておき、実際にアイデアを出してもらうのは苦勞しました。質問をしても考え込んでなかなか意見を出してくれない状況で、はじめのうちは、



▲ あいさつする 瓶子長幸学部長



▲ 協力しあった成果…表彰式で

サポートする立場で学んだ コミュニケーション能力

清水 隆太
3 年次

コンテンツは、ふだんあまり接点のない高校生とかわるという点で非常に楽しませてくれました。そして、高校生から多くのアイデアを引き出そうという思いをもっ



大学では自分が考える立場ですが、高校生をアシリテーションすることで、サポートする立場を経験し、コミュニケーション能力やディ

ふだんゼミナールで自分と年の近い人たちの議論を促すことには慣れていたつもりですが、今回は年齢が離れた高校生たちのアイデアを集約しなければなりません。大学生とは、考え方も知識量も違う高校生と、うまく会話ができるのか？ 初めは多くの不安があり、ある意味、私は高校生以上に緊張していたと思



この経験を糧に、周囲と自分が相互に成長できるような配慮や行動の求められる社会人になっていき

経営学部

経営学部の公開講座「高校生のための経営学実践講座」は、共同作業の楽しさや難しさを経験して、働くことの意味や経営学部で学ぶことの意義を理解してもらおうと、日本マクドナルド(株)の協力で開催している。「こんな商品があったら」という高校生

豊かな想像力をもつ高校生 アイデアを一つの形に導く

柴崎奈緒美
4 年次

チューター役で参加したとは、来年4月から社会人としてスタートをきる私にとっ

また、当初の不安をよそに、なんと高校生たちのアイデアを一つの形へと導くこと

できた私自身やほかのチューターにも、いろいろな気づきがありました。そして何よりうれしかったのは「将来、専修大学の経営学部に入社したい」と、高校生から別れ際にかけられた一言でした。あの講義で教わった「人は自分

です。しかし、実際に始めてみると、高校生の想像力の豊かさに驚くばかりでした。また、当初の不安をよそに、なんと高校生たちのアイデアを一つの形へと導くこと

この経験を糧に、周囲と自分が相互に成長できるような配慮や行動の求められる社会人になっていき

ネットワーク情報学部コンテンツデザインコース2年次生

登戸小学校と理科教材づくりで交流

「いろいろな観点から見る」 グループワークから学んだ

湯浅 朋美
2 年次

4月13日。この日が初めてのコンテンツデザイン基礎演習だった。グループテーマは「星」の中から「惑星」に絞

「金星」に焦点をあてて、グループワークを進めた。まずは、自分が自分の知識のな



リアルな星を再現するために、段ボールの内側にフラックライトを設置。特殊な塗料を使って星を光らせた。地上となる部分には登戸周辺の地図・建物の立体模型を設置

7月13日。ちょうど3カ月後に、登戸小学校に持っていった制作物のタイトルは「二番星きらり」。「二番星」をタイトルにいれることで、「二番星」に焦点をあてて、グループワークを進めた。まずは、自分が自分の知識のな



今回、ユーザーから直接、反応がもらえるという貴重な経験ができた。また、複数のメンバーで一つの成果物を作ることは難しかったが、いろいろな観点から物事を見る大切さもわかった。この経験を生かし、今後のグループワークにつな



て面白い、ワークシートにシールを張っていくという流れだったのだが、予想以上に反応がよく、「金星は満ち欠けするんだね」と言ってもらった。それが、一生懸命取り組んだ甲斐があったと思った。

ネットワーク情報学部

リアルな星空にこだわる 作る技術より「相手を知る」

安嶋 大樹
2 年次

私たちのグループのタイトルは「星の生き様」。「星の色

発表当日はフラックライトのおかげで、たくさんのお客さんが来てくれて、「すごい！きれー！」

今回の学んだことは「相手を知る」大切さ。どうすれば楽しく使ってもらえるか、どうすれば多く学んでもらえるか。そのためには、小学生のことを理解しなければならなかった。実際に小学校を訪問してみると、苦戦する場面もあり、良い作品のためには「作る技術」よりも、「使う人のことを考える技術」の方が重要だとわかった。これからは、それを踏まえて良い作品を作りたい。



ネットワーク情報学部2年次のコンテンツデザインコースに学ぶ学生たちが、授業の一環として、川崎市立登戸小学校6年生の理科教材作りに3カ月間かけて取り組んできた(5月号既報)。7月13日に、小学生たちに成果を披露した学生の感想を紹介しよう。

などの感想を聞いて、ひと安心。パソコンを利用した教材では、星座の中に色のついた星を正しく埋め込んでいくというゲームを用意。マウスの取り合いになる場面もあり、楽しく学んでもらえたようだ。